横山大観

明治から昭和にかけて活躍して、ことに名高い横山大観（一八六八～一九五八）は、明治二十二年に開校した東京美術学校の第一期生で、各展覧会への出品と受賞を重ねて活躍した他、日本美術院創立に参加するなど、画壇の様々な動向にも大きな影響を与えた。彼の積極的な姿勢は画風の展開にも表れ、水墨表現の追求、鮮やかな色彩による装飾的画風の展開など、その創作意欲は最後まで盛んで、近代日本画の改革運動を、芸術的に、社会的に推進した画家であった。昭和六年に帝室技芸員、昭和十二年に文化勲章を受章、昭和二十六年に文化功労者となった。

本作品は、昭和三年の御大礼にあたり、東伏見宮周子妃殿下より香淳皇后に贈られた作品である。一種類の花だけを大きく空間を取って描いた、大観には珍しい作品である。菊花の花びらの一枚一枚の表情を大切に描き、葉は墨の暈かしに緑青と金泥によって微妙な表情を加え、菊花の部分を中心に背面に薄く金泥を施して、画面全体に荘厳さを加えている。香淳皇后がお手許に置かれた作品である。

99 菊花　昭和3年

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

香淳皇后の御絵と画伯たち
三の丸尚蔵館展覧会図録No.43

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十九年三月二十七日発行

© 2007, The Museum of the Imperial Collections